



「まちの駅」内の様子

❖取組を開始したきっかけ

蟹江一番街発展会は、近鉄蟹江駅から北へ約1.5km離れたJR蟹江駅前までまっすぐ伸びる通りをメインストリートとして、その周辺の6つの通りから形成されている商店街だ。

昭和後期、極めて繁盛していた商店街だが、平成に入ると衰退し、発展会も方向性の違いから、内部分裂して商店街事業を休止してしまった。そのような中、休眠状態だった発展会を、平成18年に若手店主が中心に再結成したことで、後述する空き店舗を利用した

コミュニティスペース「まちの駅」が開設され、季節に応じたイベントが開始された。双方の事業目的は、空き店舗をマンションや駐車場にせず、商店街の一部として活用すること、商店街に人通りを取戻すことである。

また、商店街活動の中心となる若手店主らは、地元と同級生や先輩・後輩等を始めとする広い人脈を持つため、商工会の青年部や消防団、更には蟹江の他の商店街との繋がりも深く、お互いが強い絆で協力しあい、市民全体で蟹江町を盛り上げている。



取組の概要 >>>>

平成20年、多目的利用スペースとして「まちの駅」の活動が始まった。まちの駅は、当商店街のメインストリートにある空き店舗を、商工会の有志により改装した店舗で、そこは商工会・発展会の各種会議やまちゼミの開催、ボランティア活動の拠点の場となっている。更に、店内には昔懐かしい昭和の雑貨が多数展示され、外観と同様レトロな雰囲気を漂わせていることから、商店街を訪れた人や町民の憩いのスペースともなっている。また、展示販売コーナーでは、町内の人々の

手作り雑貨等、趣味の作品が展示され、利益追求することなく安価に提供されている。

まちの駅が憩いの場に相応しい雰囲気を保てるように、現在30名ほどのボランティアスタッフが交代で管理を行っている。



▶あらゆる活動の拠点となっている「まちの駅」



取組の概要 >>>>

蟹江町では1年を通して様々なイベントが実施されている。その主体は蟹江一番街発展会だが、蟹江町の他の商店街や蟹江町商工会等も積極的にイベント事業に参加している。

夏の蟹江では、蟹江町最大のイベント「Aloha de 一番街」が開催されている。このイベントの発案は発展会のメンバーの「サーフィン大好き」「ハワイ大好き」「ハワイいいね」そんな発想から始まっている。イベントのテーマは当然「ハワイ」であり、ビアガーデンやフラダンスの体験教室、プロによる生バンド演奏、ハワイアンショップ等、多彩な内容で人気がある。蟹江一番街発展会発足当初より続いているイベントであるが、平成25年には、8月下旬の週末に2日間に渡り開催され、来客者数は約3,000人弱と大盛況であり、回を重ねるごとに規模が大きくなっている。

その他、春には八重桜の満開時に合わせ、当商店街の一部を歩行者天国とした「桜まつり」が開催され、ライトアップによる夜桜や、ジャズ演奏も取り入れた、「和とジャズと桜のコラボレーション」を楽しめるお花見スポットとして賑わいを見せている。また、秋にはバーベキュー大会が、冬には歳末感謝祭が行われている。更に、現在、平成26年の開催を目指して、ハロウィンと関連したイベントを考案中だ。

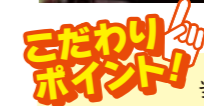
当商店街は季節のイベント以外にも、近隣のJR・近鉄線の駅を利用し、各路線が主催するウォーキングイベントにも参画し、様々なイベントの開催により蟹江町全体の活性化を図っている。



ハワイをテーマにしたイベントを開催



桜まつりでのジャズ演奏



当商店街では、前述したように若手店主の人脈により、他分野で活躍する町民をまきこむ形で事業を行っているが、これにより商店街だけでイベント案の模索をするよりも良い案が挙がる結果を生み、イベントが活発化する原動力となっている。

更に、イベント時には地元の学生とコラボレーションして、フェアトレード品の販売や会場で使用されるテーブル製作等を行っており、共に活動することで商店街の役割を理解してもらい、次世代の蟹江町の活気に繋げられるように目指している。

❖取組の効果・課題等

「まちの駅」により、以前より来街者が増え、町が明るい雰囲気になった。更に、地方新聞に展示品の募集掲載をしたところ、大きな反響を呼んだこともあり、まちの駅の認知度は徐々に高まっている。また、イベントを繰り返す毎に、来客者も増加するなど年々盛り上がりを見せており、平常時における商店街の利用者も徐々に増えてきた。

現在、当商店街では空き店舗対策として、外部から有名店を空き店舗に誘致し、賑わいを作り出すことを考案中である。また、当商店街では車の往来が多いため、人が安心して歩ける歩道の整備も急務となっている。

